

# 核兵器禁止条約が 国連会議で採択



## 共産党・志位委員長が歓迎声明

「核兵器禁止条約の国連会議」は、7月7日、核兵器禁止条約を、国連加盟193カ国の63%にあたる122カ国の賛成（保留1、反対1）で採択しました。採択をうけ国連会議に参加していた日本共産党の志位和夫委員長は同会議のホワイト議長と握手を強くかわし喜び合いました（左写真）。そして心から歓迎する声明を発表しました。声明の概要を紹介し（見出しは編集部）。

### 核兵器に「悪の烙印（らくいん）」をおし、 全面的に違法化した禁止条約

核兵器禁止条約では、前文で「ヒバクシャ」をはじめとする「市民的良心の役割」が強調されています。志位氏は声明で「条約をつくりあげた力が世界の草の根の運動にある」と指摘しました。

そして条約が「核兵器の開発、実験、生産、製造、取得、所有、貯蔵、使用」などを禁止するとともに、「使用の威嚇」の禁止が明記されたことを、「核抑止力論——核兵器による威嚇に依存した安全保障論を否定したものとして、大きな意義をもつ」と強調。「核兵器に『悪の烙印（らくいん）』を押し、それを全面的に違法化するものとなった」と高く評価しています。

### 条約の採択はスタート 核廃絶めざし新たな挑戦を

声明は「核兵器禁止条約の採択は、新たなスタート」だとして「核兵器完全廃絶の実現」にむけ、「核

兵器禁止条約そのものがもつ力」、「世界の多数の諸政府と市民社会の力」、「核兵器保有国とその同盟国で…禁止条約への参加を求める運動」という「3つの力」を合わせる重要性を指摘。そのために大いに奮闘する決意を表明し、「新たなたたかいに挑戦」しようと呼びかけています。

### 条約に背を向ける日本政府。 今からでも条約参加へ再検討を

そして「日本政府が、唯一の戦争被爆国の政府であるにもかかわらず、歴史的な核兵器禁止条約に背を向ける態度をとっていることは、内外の強い失望と批判を招いている」と批判。「日本政府が、従来の立場を抜本的に再検討し、核兵器禁止条約に参加することを、強く求める」と強調しています。同時に野党と市民の共闘で核兵器廃絶の先頭にたつ政府をつくる決意を表明しています。 声明の全文は HP で→



## 歴史的条約を歓迎し、核兵器廃絶へ全力!!

人類史上初めて核兵器を違法化する条約が採択されたことを、心から歓迎します。被爆者をはじめ、核廃絶のために取り組んでこられたみなさんの成果です。野党と市民の共闘で条約に参加する政府をつくりましょう。



ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590  
2017年7月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。  
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

# 日本共産党